

第4学年国語科学習指導案

日 時：2023年7月19日(水)第5校時
場 所：滝川市立東小学校 4年2組教室
児 童：35名
指導者：水尾 桜子

1. 単元名「短歌の世界」
2. 単元について

本単元「短歌の世界」は、紹介された短歌を音読し、様子や気持ちを想像しながら言葉のリズムを味わうことを目的としており、ふだんはあまり接することのない言語文化に触れて、そのよさを味わうことができる単元である。単元末では、お気に入りの短歌や自分で作った短歌を入れたオリジナルの「短歌帳」を作るという言語活動を設定する。本学級の児童は、3年生で俳句を学習し、文語調のリズムに親しんでいる。短歌を書く活動をしたこともあるため、困難なく、学習に取り組める児童が多いと考える。しかし一方で、文語調の短歌の作品に触れる活動は初めてであるため、言葉が分からず、難しく感じる児童がいることも予想できる。したがって、本単元の活動にあたっては、リズムや語感を楽しませつつ、使われている言葉の意味や歌にこめられた思いを解説文や写真とも絡めながら丁寧に押さえ、歌の情景や心情を想像できるように支援をしていく。

〈研究とのつながり〉

本時では、想像した情景や心情が表れるような音読をすることを目標としている。どのように音読するかを1人ひとりが考え、その考えをもとにペアで音読を聞かせ合い、アドバイスをし合う活動を行うことで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、自分の考えの形成・表現をより深めていくことができると考える。音読発表をする際は、ワークシートを写真に撮って教師に送り、全体に画面共有することで、聞く相手に音読のポイントを示しながら音読発表をすることができるようにする。

3. 単元の目標と評価規準・指導計画

(1) 単元の目標

- 短歌のリズムに親しみ、進んで音読や暗唱をしようとする態度を養う。
- 想像した情景や心情が表れるように、声の大きさやリズムを工夫して音読することができる。
- 短歌の5音7音を中心としたリズムを創作することで、国語の美しい響きを感じ取ることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
短歌の5音7音を中心としたリズムを音読したり、創作したりすることができる。	想像した情景や心情が表れるように、声の大きさやリズムを工夫して音読している。	進んで易しい文語調の短歌を音読したり、暗唱したりするなどし、言葉のリズムを楽しんでいる。

(3) 単元の指導計画

時	ねらい	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体的
1	五色百人一首で遊び、短歌のリズムやひびきに興味を持たせる。	○	○	◎
2	全文通読をし、それぞれの短歌の特徴・よさを捉える。	◎	○	○
3	(解説文や写真を活用する。様々な人の短歌の音読を聞く。)			
4	情景や心情を思い浮かべながら短歌を音読する。(本時)	○	◎	○
5	お気に入りの短歌を選び、理由とともに短歌帳に記録する。	○	◎	○
6	短歌を創作し、短歌帳を用いて友達と交流する。	◎	○	○

4. 本時案(4/6)

(1)本時の目標

○想像した情景や心情が表れるように、声の大きさやリズムを工夫して音読することができる。

(2)本時の展開

	児童の学習活動と内容	教師の発問(○)や手立て(・)	視点との関わり・評価(■)
つかむ5分	1. 前時の学習内容の確認をし、音読練習をする。 2. 本時の課題を確認する。	・短歌のリズムを確認し、音読するよう促す。	
	聞く相手に情景や心情を思いうかべてもらえるような音読をする。		
考える15分	3. 課題を達成する方法を考える。 ・声の大きさやリズムの工夫。 ・事前に注目ポイントを言う。 ・短歌に動きをつける。 ・画像を見ながら聞いてもらう。 4. 個人 どの短歌をどの方法で音読するのかを決め、ワークシートに音読のポイントを書き入れる。	○「この課題を達成するには、どうしたらよいですか。」 ・本時までの学習内容を教室に掲示しておく。(ふりかえり) ・考えが思い浮かばない場合は、ペアで相談するよう促す。 ・教科書を参考にするよう促す。 ・ポイントの書き入れ方を例示する。(ICT) ・発表の仕方を伝える。	■聞く相手に情景や心情を思い浮かべてもらうにはどうしたらよいか考えている。(発言・ワークシート) 視点1 個別最適な学びと協働的な学び:自分で考えた短歌の音読の仕方をペアで聞き合うことで、より相手を意識した音読ができる。
深める20分	5. ペア活動 ペアで短歌の音読やポイントを聞かせ合い、アドバイスをし合う。 6. 全体思考 短歌を音読し合い、感想を交流する。(音読をする際は ICT を活用し、教師に送ったワークシートの画面を電子黒板に映す。)	○「聞く相手を意識しながら、短歌の音読練習をしましょう。」 ・机間指導を丁寧に行う。 ○「音読を聞いて、様子が思い浮かびましたか。」 ・音読発表をする際はワークシートを見せながら音読をする、または発表後にワークシートを見せるの内、どちらかを選択させる。 ・子どもの発言からまとめを作る。	視点2 ICTの活用:ワークシートを全体に共有しながら音読をすることで、聞く相手に、音読ポイントを示しやすくする。 ■声の大きさやリズムを工夫して音読している。(発表・ワークシート)
ふりかえり5分	(例)聞く相手に情景や心情を思いうかべてもらうには、声の大きさやリズムを工夫する。		
	7. ふりかえりをする ○今日のような音読の工夫は、今後どのような場面で使えるようか、考える。 ○音読をして、音読を聞いて、の感想を書く。	・ワークシートに記入。 ・書けた人から発表させる。	

(3)本時の評価

○聞く相手に情景や心情を思い浮かべてもらうにはどうしたらよいか考えている。(発言・ワークシート)

○声の大きさやリズムを工夫して音読している。(発表・ワークシート)